

令和3年5月(2021年) No.665

大阪、変異株コロナの蔓延で又、緊急事態宣言

4月例会は急遽休会へ

上映予定作品は会報での会長講評と YouTube で

コロナ禍は治まるどころか、変異株登場により大阪では4月下旬より連日1千人を超す猛威をふるって医療体制が逼迫している事態となった。第三次緊急事態宣言が4月25日から5月11日迄の間実施され、4月24日(土)に予定していた例会は休止となった。25日から始まる宣言でまだ前日なので、実施できないわけではなかったが、夜の時間が8時までと短縮されている上に、連日の感染者が千人越えの社会的雰囲気もあって止む無く休会にした。出席予定者には申し訳なかった。

代わりに、出品予定者の作品は会長宛にブルーレイディスクにして送り、講評を付けた後、進藤氏が作品をまとめて中川氏に送ると共に会員限定、期間限定の YouTube にあげ、会員諸氏に見てもらうことにした。

撮影会も中止へ

堺で与謝野晶子にちなんだテーマで撮影会を予定していたが、堺での同イベント行事がすべて取りやめになった、という事で、緊急事態宣言後もコロナ禍がいつまで続くのかの見通しが付かないところから、撮影会は昨年に引き続き今年も実施しないことになった。撮影会の楽しみは撮影の楽しみと同時に仲間内との触れ合いに意義があるが、2年続きの取りやめは甚だ残念なことである。コロナ禍が一定程度治まって、できれば秋にでも実施できれば幸いであるが、今年の映像フェスティバルに撮影会作品が登場することは無くなった、残念だ。

5月例会のお知らせ

- 第2例会：第3木曜 20日 13時より。但し緊急事態宣言が延長の場合は中止になります。
- 通常例会：第4土曜日 22日 18時より、第2例会と間1日置いての例会ですがよろしくご出席のほどを、但し宣言次第では休止も。

OMC フェスティバルは 10月3日（日）に会場予約

第61回 OMC 映像フェスティバルは、大阪市立中央会館大ホールで行うべく、このほど10月3日の日曜日に会場予約ができた。しかし例年と違ってコロナ禍時代での行事とあって、いろいろと制約が付けられている。

● 制約事項

- ① 収容人員を最大100名に抑える事
 - ② 予約金として会場費を前払いしてあるが、中止となっても返金されない。
 - ③ 手指消毒、体温測定はこちらで準備と実施
 - ④ 椅子の撤去時、消毒布は準備してくれるが、開催者で清掃して収納する事、等々。
- 昨年は民間施設の朝日生命ホールだったので、椅子等の消毒などは会場側でやってくれていたが、公営の会場では、借りる側がやらなくてはならないらしい。
- 会員には例年以上にお世話をかけることになるが、今からよろしくご協力お願いしておきたい。

課題コン「窓」に力を

映像フェスティバルに作品上映するには、やはり作品の「質」内容が問われる。
今年は撮影会作品の優秀作の出品が無くなったので、せめて課題コンからの優秀作品をプログラムにあげたい。
今年の課題は宮中歌会始の来年の課題にちなんで「窓」であるが、あまり平凡すぎて取り付きにくいテーマと思われるかも知れない。そこは考え方によっていろんな見方で取り付くことも出来るのではないかな。脚本構想次第であろう。

課題コン「窓」のヒント集

会長 合原一夫

- 窓の内側からその様子を見る
 - ◇ お庭の花畑か、子どもの遊ぶ姿か、高層の窓から見た風景か、隣のマンションの姿や生活ぶりの眺めか。
- 外から見た窓を見る
 - ◇ なんてこんなに色々のかたちの窓があるのだろうか、新しいの、古いの、お寺の。
 - ◇ 窓の大きさ、形から、使われ方を想像
 - ◇ 窓ガラスによって鏡のように外の景色が写っている。その様子。季節感
 - ◇ 窓を見ていると建物の歴史が判る。
 - ◇ 建物の用途によって窓の特徴が違う。
- 天窓を見上げる
 - ◇ JR大阪駅の全面天窓に想う事
 - ◇ わが家の天窓にまつわる思い出
- 教会のステンドグラスの美。
 - ◇ 旅の回想
- 乗り物の窓から眺める風景
 - ◇ 環状線の窓から外を見ながら、あの時の思い出がよみがえる。
 - ◇ 新幹線の窓から眺める走りゆく風景。その時何を思っていたか、回想。例えば富士山を見ながら、昔登った事等。
 - ◇ 飛行機の窓から眺める外の景色。日本アルプス上空で、あの時の〇〇旅が忘れられない。
- 窓明かりでステイホーム
 - ◇ コロナ禍で外出せず家の中でゴロゴロ
 - ◇ 窓明かりの下で好きなことをやっている
 - ◇ 窓際のわが編集室、コロナで編集三昧
 - ◇ 窓辺で寝転ぶ猫、我が家の猫物語

堀皓二氏が退会届

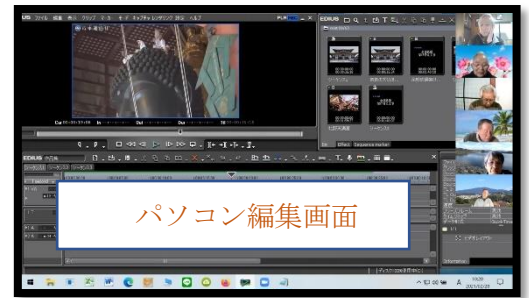
3月31日付で「脳梗塞による後遺症の為、退会します」との届けが出されました。

リモート会議ツール 「Zoom」を活用して

4月23日。令和2年4月7日の第一回新型コロナウイルスによる緊急事態宣言が発出されてから3回目が発出された。今回は、大阪にとっては変異株のコロナ感染予防対策が肝要だという。
デジタル化の進展により、身近になったリモートコミュニケーションツール「Zoom」に取り組んで約1年近くになった。Zoomアプリの使用法の習得から始めたが、やっと身につけてきたと感じている。
取り組みテーマは①複数タイトルを収録したメニュー付きDVDやブルーレイディスクの作成、②ビデオ編集における音量調整の仕方、③ナレーション録音環境の整備、④ネットワーク配信などが一般化した環境で

の著作権フリーBGM曲の探し方、⑤編集映像への挿入地図の探し方と挿入の仕方、へと進んできた。最近では、⑥これらの過程で習得した、「パソコン編集画面(タイムライン)をリモートでお互いに参照(画面共有)して、編集操作などの質問や指導を、テレビ電話方式で受ける事が出来るようになった。

従来、各自の自宅へ来訪してもらったり、リモートオペレーションツールを利用して電話で通話しながら遠隔操作によりトラブル対応やパソコン操作を依頼するやり方であった。Zoom 利用方式では、来宅してもらって隣にいて面接指導を受けたり行ったりすることと遜色がない。お互いに、来宅時間や費用もなく、希望すれば遠隔操作も出来るので時間の折り合いさえつければお互いに家族への負担もなく、距離との関係もなく対応がしやすい。パソコン画面の動きもスムーズで一本の線でテレビと結べば大きなテレビ画面で見ながら行うことも出来る。



現在は、一対複数相手の講義方式が中心だが、お互いの距離に関係なく一対一の対面類似方式の利用が活用範囲を広げていくのではないかと考えている。

これからは、パソコン画面を利用したリモート会議方式で、各自の作品やコンテスト入賞作品を視聴して、感想や意見交換、先輩たちの蘊蓄を語っていただく事も計画している。また、自由な質問会開催等も希望がでている。

話し合いながら、必要なデータファイルを送り、簡単なメッセージを送ることも行っており、すでに参加の皆さんは体験されている。

この実現は、すでにビデオ編集に利用しているパソコンに小型カメラを追加(費用は3~5,000円程度)で実現する。現在、会員の6割近くが参加されている。なかには、会員の地元クラブや首都圏クラブの開催に定例参加されている方もいる。私たちも大阪地区ビデオクラブとの交流を始めている。リモート会話やパソコン操作に違和感がなく、対面の為の距離も問わないことが最大のメリットである。

これまでの開催内容は、ブルーレイディスクに纏めてあり、例会で上映しているが、希望者には貸し出すことができる。これからも、多くの方の参加をいただき、例会と併行して会話の場・相互学習の場として継続して活用を続けたい。(2021.4記)

4月例会休会に換えて

会長宛に寄せられた作品の紹介

通常なら、この欄は例会レポートとして、出品された作品の紹介と講評を載せるところですが、コロナ禍による緊急事態宣言で休会となった為、会長宛に作品を送り、講評を受けたものをここに紹介します。これらの作品は会員限定でYouTubeに公開されています。

<提供作品>

- 1、醸造の香りに生きる町 紀州・湯浅
岡本至弘 BD 11分00秒

<作者コメント> 昨年6月例会提出の作品を改作しました。

紀州湯浅は、古くから交通の要衝として栄えてきた町で、江戸中期には、みかんを江戸に運び巨万の富を得たという、豪商、紀伊国屋文左衛門の生誕の地としても知られている。

鎌倉時代に伝来した金山寺味噌の製造過程から生まれたといわれる醤油醸造の代表的な産業が発達してきました。今もその古の歴史と伝統、醤油の香りが漂う街を映像にしました。

<会長コメント> 何回も現地を訪れられて作られた力作ですが、少しあれこれと寄り道が多くて全体としての主旨が拡散している印象が免れません。ラストにテロップで「悠久の刻を経て今の時代に語りかけてくる匠の技と文化が息づくまち、湯浅です」と云われていますが、これが作品の狙いとして結論であるならば、このコメントに必要なカットはどれとどれか、関係の薄い、なくてもよいカットはどれか、など見極め、この狙いを強調するには、トップはどこから入り、ラストはどのシーンが最も印象を深めるか等、脚本構想の見直しをすれば、さらに良い作品になるでしょう。

行灯アートの場面は美しいだけに印象がそっちに行ってしまう、主題の印象が薄れてしまっています。湯浅醤油の過去の栄光に比べ、現在の状況はどうなのか、という問題点にも触れてほしい。行灯アートは落ちかけた町のイメージをアップしようとした取り組みだったのではないか、そんな気がしますが、そうやって関連付けて展開してゆくと観客が納得しやすい。

2、京都・岡崎さくら回廊めぐり



進藤信男 BD 8分18秒

<作者コメント> 京都市内に流れる琵琶湖疎水は、明治になって都が東京に移った後の、町の活気を取り戻すための大事業だったので。若い技術者「田辺朔郎博士」を起用し、鎖国時代から解放された新しい時代に相応しいやり方であった。琵琶湖からひかれた疎水が、京都蹴上・岡崎を起点にして北から南までの広い地域に流され、日本初の水力発電所建設まで行ったことにより、その後日本初の市電の開通まで行われて現在の京都の基盤を確立していることを知ると驚くことばかりです。



コロナ禍が続く環境下で、疎水の桜巡りと洒落こんでみたがこんな大きな仕掛けがあることを知ると、明治の先人たちの心意気に改めて感慨を覚えるのです。

<会長コメント> タイトルから見ると単なる桜をあちこち見て回る作品かと簡単に考えていたが、内容は どうして どうして琵琶湖疎水を建設した田辺朔郎の話からインクライン、発電所建設の話など盛りだくさんでよく8分の作品にまとめられたなと感心致しました。それだけに話題の豊富な疎水にまつわる話がさっさと終わってしまうのが物足りなくて惜しい気がします。題名を見直し、遊覧船でのカットを縮めて疎水の工事とその結果の影響の大きさなどに焦点を絞った作品にされたら全国コンに出してもよい位の作品になるでしょう。

3、初秋 西芳寺の庭

中川良三 BD 7分51秒

<作者コメント> ここ西芳寺は予約制で、当日の天候は幸い晴れ、正門で写真を撮る若い人、自身のブログにでも乗せるのかな～？と思いながら通用門へ行くと多くの人が待っていた。

境内一面を覆う苔の美しさから、「苔寺」として親しまれ、35,000平方メートルにおよぶ庭園は、池泉式庭園と枯山水庭園が国の特別名勝及び史跡に指定されている。夢窓國師作庭の西芳寺枯山水はあらゆる枯山水庭園の原点と言われているという。

紅葉と、苔の緑が醸し出す庭園の静けさの中で鳥の声を聞きながら楽しむことができた。

<会長コメント> 西芳寺、静かでなかなか立派なお寺さんですね。こうした場所に佇んでいると心が洗われる気になるに違いありません。

パソコンによるナレーションの響きもよくなってきたように思いますが、「である」調と、「あります」調が混在しているのでこうした観光作品の場合は「あります」調の方がよいでしょう。又苔が立派なのでその苔のUPを入れて強調したいところです。

4、祭りの朝

高瀬辰雄 BD 10分00秒

<作者コメント> 10月22日京都三大祭りの一つ、時代祭は京都御所から出発するが、祭の先頭に行く維新勤王隊は数キロ離れた公園に集まり、そこから隊列を組んで御所に向かう。5年ほど前に近所の公園で撮影したもので、早朝、馬が揃い、少年たちが集まり、それを見守る人達。タイトルどおり祭の朝の雰囲気が出せたかどうか？

<会長コメント> 上手く出来ています。このまま発表会でもOKですが、ラストの時代祭の横断幕をトップにし、次に題名を出し、準備状況、出発したところで終わりとしたら如何でしょう。本番の行列が少し長いです。

5、紅葉の高取城跡

江村一郎 BD 8分00秒

<作者コメント> 昨年の秋に高取城に行ってきました。

以前の「城と石仏と」が詳しく説明しようとして分かりにくいところがあったので今回はテロップも少なくして極力映像でつたえるようにしました。

<会長コメント> 精力的に現地に行き撮影されている様子が画面から伝わってきました。高取城あたりが復元されたら、素晴らしい観光地になるに違いありませんね。

